講義名	心理学演習（カウンセリング）					授業形態	
担当教員	銅直　優子	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 ３時限				
		単位数	2	履修開始年次	３年生	ナンバリング・コード	CLP381

主題と概要

心理カウンセリングとは、個人の悩みや迷いなどの問題を解決することを援助する学問である。個人の問題を解決する為にはいろいろな技法があるが、その基本となるものは、話を聞く側の価値観や思い込みなどを相手に押し付けずに、正確にその人の話を理解していくことである。
本講座では、相談に訪れた人に対してどのように話を聞いていけばよいのかということを中心に学習していただく。小グループを作り、ロールプレイ（受講生が来談者役やカウンセラー役になり話しをする）を通し実際に話を聞く又は、聞いてもらうという体験をしてもらう。ロールプレイの際には、自分の話しの聞き方について振り返りを行うためMDやビデオを使って実習場面を記録していく。
もた、この講座では、カウンセリング場面だけではなく、接客場面でも役立つスキルとなるため、商品選択を迷っている人たちなどに対応する基礎的な力も習得できる。
話を聞く姿勢が相手にどのような影響を与えるのかということを体験的に学習していくことを目的とする。

到達目標

①人の話を援助的に聞くことができるようになる。
②自分の気持ちに対して援助的に関わることができるようになる。

提出課題

授業内で取り組んだことについて報告書を作成しもらうことがある。
テキストに対するワークシート取り組んできてもらうことがある。
実習で録音した逐語録を作成してもらう場合があある。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出していただいた逐語録については、授業の教材として取り扱い、授業内で解説を行う。
テキストに対するワークシートについては、提出された翌週に返却する。また必要に応じて授業内で解説を行う。

評価の基準

＊授業の性質上、毎回の出席と授業への参加態度を重視する。
＊欠席が1-2回あるだけでも単位取得ができない場合がある。

授業への参加態度や実習の取り組課題の達成度　50%
最終レポート（もしくは、最終実技試験）　50%

履修にあたっての注意・助言他

①テキストを使用するので必ず購入して参加すること。
②本講座は、実習であるため、受講生は積極的にロールプレイに参加してもらわなくてはならない。その構えのある学生に受講していただきたい。
③基本的に欠席・遅刻は認めない。他の受講生に対して迷惑になるため（毎回実習内容が進んでいく（積み重ね方式）為、ロールプレイを組んだ学生に迷惑をかける）その可能性のある学生の受講は勧めない。また、欠席が目立つ受講生については、途中で受講を辞退していただく場合がある。
④対面授業でロールプレイを頻繁に行っていただくため、感染予防のルールを授業内で指導していくため、そのルールに従い、受講すること。
⑤本講座を受講する前に「カウンセリング」を履修していることが望ましい。

教科書

.心のメッセージを聴く.	池見陽	講談社現代新書	968	9784061492417

参考図書

.フォーカシング指向心理療法（上・下）.	E・T・ジェンドリン　著，村瀬・池見・日笠　監訳	金剛出版	3800	

その他

授業計画

1 カウンセリングとは
予習：「カウンセリング」とは何か、傾聴技法とはどのようなものかについて調べておく（120分）
復習：授業時の説明と指示されたテキストの箇所を読み理解すること（120分）

【第2回～第14回の予習と復習について】
本授業は実習が主体であるため、第2回～第14回までは、個人によって復習の内容が違う場合があるため、下記の内容を参考にして、自分に該当する、復習を行うこと。
予習：各回で指示されたテキストを読み、授業名で配付されたワークブックに解答すること。ワークブックに解答したものは次回の授業で提出すること（120分）
復習：逐語録を作成する場合は、逐語録を作成し、自分の応答について振り返り、より良い応答を考えてみること。逐語録の作成が不要な場合は、授業のワークにおけるリスニング（自分がリスナーの時と相手がリスナーの時の両方）の良かった点と悪かった点を整理すること（120分）

2 話を聞く（聴く）基本姿勢について
ー解説・実習・検討ー
3～7 絶対傾聴　ー解説・実習・検討ー
話し手の語りを理解する
8～9 話し手の語り方を評価する
～体験過程スケール～
10～13 まだ言葉にならない「気持ち」と対話をしていく方法について
～フォーカシング技法を通じて～
ー解説・実習・検討ー
14 コラージュ作成
**コラージュとは、心理療法の中で芸術療法として取り入れれているものであり、雑誌や写真などの切って、画用紙に貼っていくものである

15 コラージュ作品を題材に傾聴実習

予習：これまでのワークで不明な点を整理し、授業時に質問できるようにしておくこと（120分）
復習：テキスト第9章を読み返し、これまでのリスニングを整理すること（120分）

＊受講生の理解度、要望に応じて変更を加えていく

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション	○	カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標①と②を達成することで、ディプロマポリシーの「人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造すること」、「コミュニケーション能力を身につけ、それらを、ビジネス、援助に実践的に活用すること」「コミュニケーション能力と、消費者と援助を求める人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面で心理学を応用すること」に貢献することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実習を通じて、その都度受講生のリスニングや質問に対してコメントを行っていく。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」病院臨床において、カウンセリングの応答の基礎技法として活用している。

備考